

明治時代の伊賀を訪ねる

明治150年

2018（平成30）年は、1868（明治元）年から150年になり、国では「明治150年」に関連した事業が行われています。

150年前、伊賀を統治していた藤堂藩は、鳥羽・伏見の戦いにおいて新政府軍を勝利へと導き、明治維新へと向かう大きな原動力となりました。

明治維新以降、日本は近代化への歩みを進め、政治や行政の制度を整えるとともに、欧米の国々に対抗するため、殖産興業の政策を推進しました。

また、新たな時代の人材育成のため、新たな教育制度を確立しました。「明治」という時代は、現在の私たちにつながる、国のかたちが築かれた時代でもありました。

伊賀市でも明治時代の建築物など、当時の技術や文化に関する遺産に触れることができます。明治時代に成立し、今日の私たちの生活に密接に係わるものをいくつか紹介します。

① 旧小田小学校本館

1875（明治8）年に開設された小田学校は、1881（明治14）年に啓迪学校と改称され、その際にこの本館が建てられました。木造2階建ての寄棟造で、屋上に太鼓楼、正面にバルコニーが設けられているのが特徴です。現存する小学校校舎として、県内で最古の建築物で、県の文化財に指定されています。なお、この建物は、文化財施設として公開しており、明治の校舎の内部を見ることができません。



② 旧三重県第三尋常中学校校舎

上野高等学校に残る木造校舎は、三重県第三尋常中学校校舎として1900（明治33）年に建てられました。南に張り出した玄関ポーチの屋根は入母屋造の破風をみせ、円柱の柱間には細かい装飾が施されているのが特徴です。県内に残る数少ない明治時代の校舎として、石製の正門とともに県の文化財に指定されています。



学校

1872（明治5）年、明治政府は「学制」発布し、全ての国民が教育を受けられるように近代教育制度の樹立をめざしました。

教育制度を整えるとともに、施設の整備も進められ、全国各地で洋風建築を模した校舎が建築されました。伊賀地域でも、啓迪学校（小田小学校）校舎をはじめ、上野寺町の東部学校などに洋風校舎が建設されました。

また、明治20年代後半になると県下において中等教育機関の設立が活発となりました。そうした動きのなかで設立されたのが三重県第三中学校でした。1899（明治32）年には、地域住民の支援により伊賀地域に第三中学校が開校しました。

3 旧上野警察署庁舎〔北泉家住宅主屋〕



1888(明治21)年に建設に着手し、翌年完成した上野警察署庁舎は、木造平屋建て、寄棟造の建物で、入口には切妻屋根の庇が付き、正面の縦長の窓には独特の小庇が取り付けられています。明治時代の三重県の施設としては最古の建物で、県内各地の警察庁舎のモデルとなったと言われています。なお、この建物は国の登録文化財になっています。

4 柘植駅



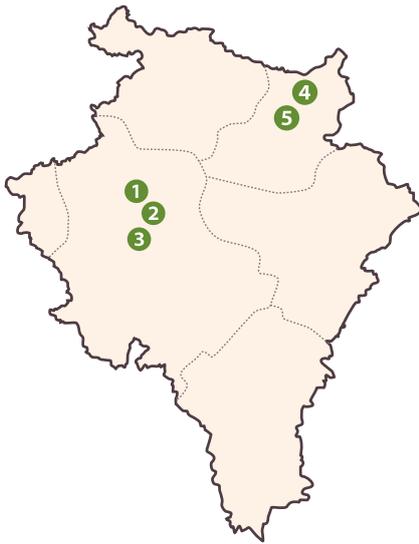
柘植駅は、1890(明治23)年に三重県初の鉄道駅として開設されました。現在のプラットホームの基壇やレンガ造りのランプ小屋は建設当時のものとされています。明治期の柘植駅では、自由民権運動で活躍した板垣退助が訪れるなど、伊賀の東の玄関口として栄えました。

5 旧柘植郵便局



柘植郵便局は、伊賀地域で最も早く設置された郵便局の一つです。明治中期に撮られた写真には、瀟洒な建物の正面に両開き扉があり、そのうえに「柘植郵便局」の看板が掲げられています。この看板は今も現存しています。

明治建築物地図



警察

江戸時代の武士に代わり明治以降に治安維持を担うようになったのが警察組織でした。伊賀地域に初めて警察組織が設置されたのが1872(明治5)年で、旧上野城の東大手門(現在のハイトピア伊賀周辺)に置かれました。この警察署は、昭和13年に新たな庁舎が建設されるに伴い払い下げられ、現在地に移転しました。

鉄道

明治時代の技術革新を象徴するのが鉄道です。1872(明治5)年に新橋―横浜間の鉄道が開通したのち、またたく間に鉄道網は全国に広がりました。伊賀地域における鉄道は、1890(明治23)年に関西鉄道柘植駅の開業に始まります。関西鉄道は、この年に三雲―四日市間が開通したのち、1897(明治30)年に柘植―加茂間が開通しました。

郵便

明治になり整えられた制度の一つに郵便制度があります。1871(明治4)年1月、太政官から「郵便創業の布告」が公布されました。伊賀地域では、明治5年4月に上野東町・柘植・佐那具などに郵便局が設置されたのち、伊賀全域へ郵便網が拡大されました。

【問い合わせ】

○広聴情報課

☎ 22・9636 FAX 22・9617

○文化財課

☎ 47・1285 FAX 47・1290